

図1 平城京条坊と薬師寺の位置

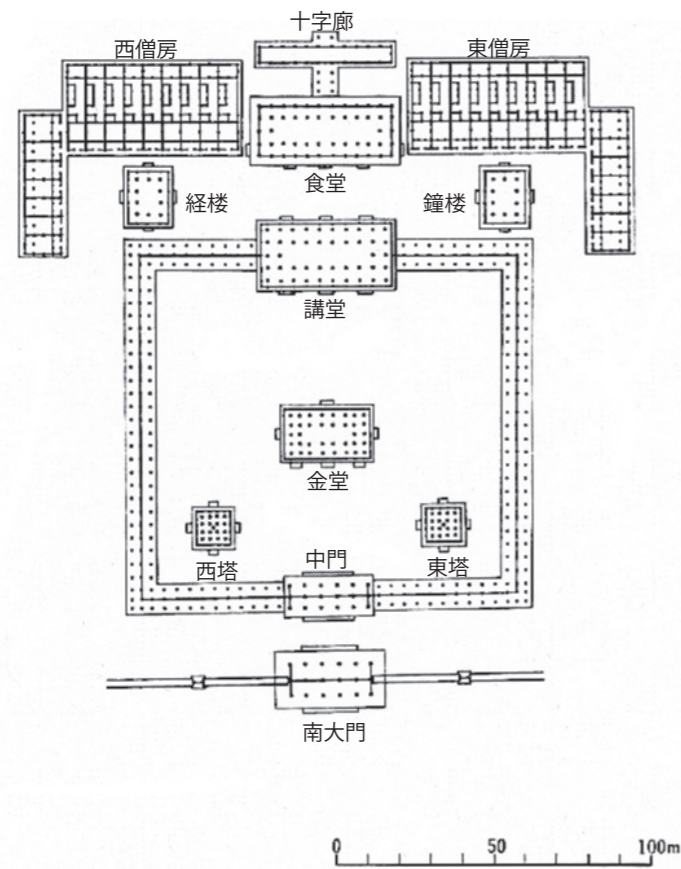


図2 薬師寺伽藍配置図

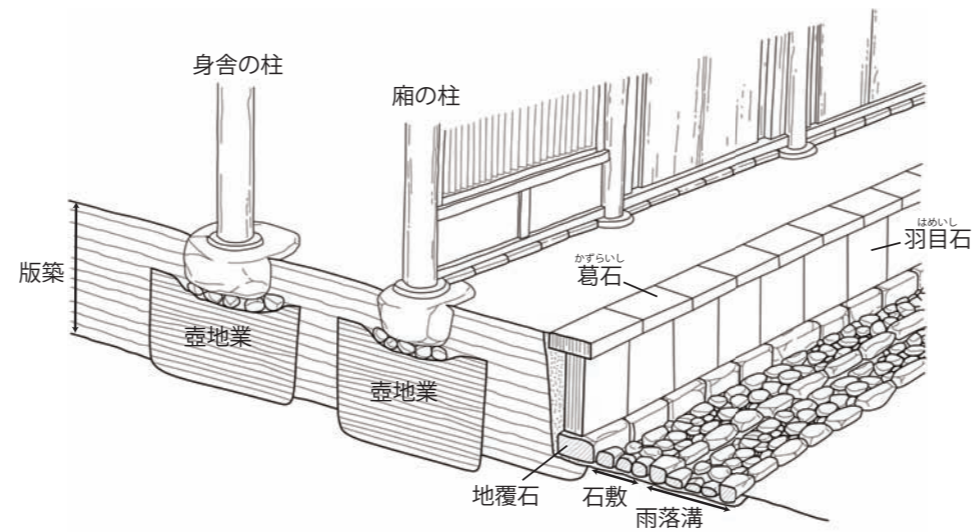


図4 基壇および基壇周辺の模式図

一、食堂一宇 九間四面。東屋長さ十四丈、広さ五丈四尺五寸。柱の高さ二丈五寸。前の戸は九間、後の戸は三間。左右の脇門は各一面。正中は一間。内殿に金銅半丈六の阿弥陀仏像並に観音・得大勢菩薩各一軀を安置せり。旧流記に云ふ、已上の三尊は、難波那我良豊前宮御宇天皇孝徳天皇 造り奉りて、此の寺に請け坐す云々と。又相伝えて云ふ、百済国王、本願天皇に献送の三種物の随一なり云々と。所謂仏像三鉢・鴻鐘・百済湯銘一口なり云々。右の堂は、天祿四年二月廿七日に焼亡したる。其の後、別当増祐、長保元年より七ヶ年の間に造り畢んぬ。仏像は同じく以て焼亡せり。但し、脇土の軀、腰上は焼遺るなり。増祐大法師造り継ぎ、並に阿弥陀仏像は本の如く造立已に了んぬ。

史料1 『薬師寺縁起』食堂部分

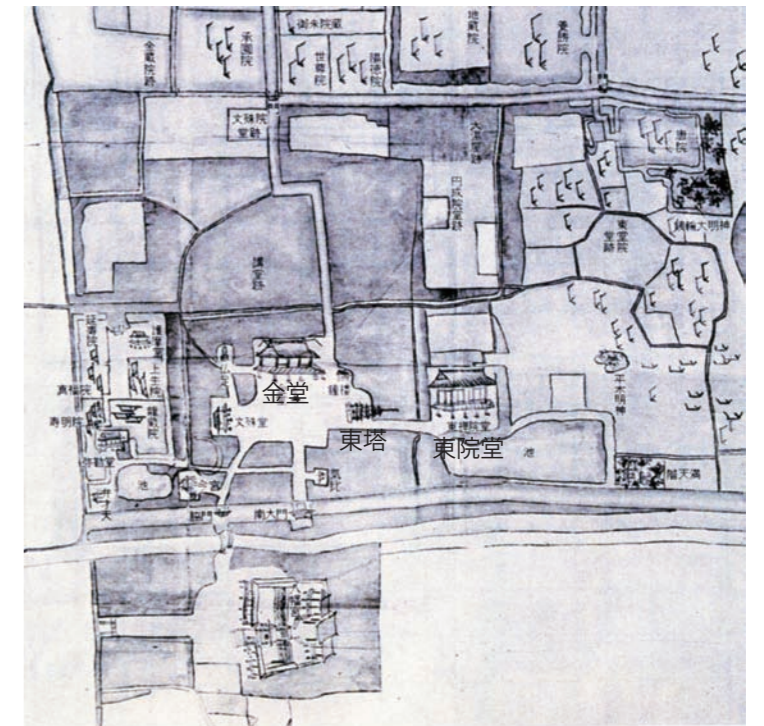


図3 伽藍寺中并阿弥陀山之図(部分) 江戸時代初期 (一部加筆)

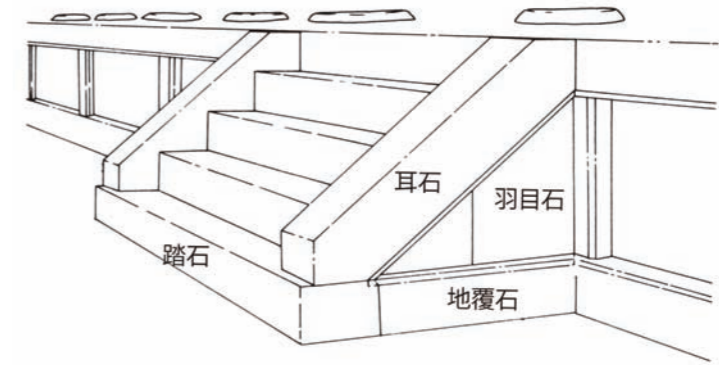


図5 階段の模式図

表1 南都の寺院における食堂の規模

寺院	柱間(桁行×梁行)	寸法(桁行×梁行)	根拠
薬師寺	11間×4間	137.5尺×54尺	発掘調査
法隆寺		102尺×57尺	『法隆寺伽藍縁起并流記資財帳』
興福寺	9間×5間	120尺×58尺	発掘調査
大安寺		145尺×86尺	『大安寺伽藍縁起并流記資財帳』
東大寺	11間×6間	196尺×98尺	『講堂院図』
元興寺	11間×4間		『堂舎損色検録帳』
西大寺	7間×4間	110尺×60尺	発掘調査(部分)、『西大寺資材流記帳』
西隆寺	7間×4間	70尺×40尺	発掘調査(部分)